

## 第57回試験研究成果発表会（果樹）発表概要

【日時】令和2年1月22日（水）13:20～16:30

【会場】農林総合研究センター 農本館 A会議室（千葉市緑区大膳野町808）

### 発表1 成果発表（13:30～13:55）

「幸水」や「豊水」果実の常温での日持ち性を向上させる方法

果樹研究室 印南 一生

「幸水」の日持ちは適熟果では常温で4日程度と短いため、やや未熟である果実が流通する場合があります。そこで、果実の鮮度保持に効果がある1-MCP剤の処理や予冷を併用することで、適熟果でも常温で10日程度鮮度保持できる技術を開発しました。また、「豊水」についても同様な結果が得られたので紹介します。



1-MCP 処理

### 発表2 成果発表（13:55～14:20）

ニセナシサビダニによるモザイク症状対策は「これ」で決まり

病理昆虫研究室 清水 健

ニセナシサビダニの加害によって発生するナシのモザイク症が全国的に問題となっています。防除対策として、萌芽前の3月上旬にマシン油乳剤を、新梢葉展開期の4月下旬にスピロトラマト水和剤（モベントフロアブル）を散布することにより、本種やモザイク症の発生が慣行防除に比べて著しく抑制されることが明らかとなりました。



ニセナシサビダニによるモザイク症

**発表3** 成果発表 (14:20~14:45)

土着天敵と天敵製剤<w天敵>で難防除害虫ハダニを防除！

病理昆虫研究室 清水 健

ナシの重要害虫ハダニ類の対策として、土着天敵と天敵カブリダニ製剤の<w天敵>を用いた防除体系の効果を検証しました。天敵製剤を放飼することでナシ園内での天敵の発生は早くなり、さらにカブリダニ類に優しい殺虫剤を選択し、適切な下草管理を行うことにより、ナシ樹上でのカブリダニ類が温存され、ハダニ類の密度が低く抑えられることが明らかとなりました。



土着天敵ニセラゴカブリダニ

休憩 (14:45~15:00)

**発表4** 成果発表 (15:00~15:25)

土壤の善玉菌の強さを見える化

—白紋羽病の温水治療効果は善玉菌でUPする—

生物工学研究室 高橋 真秀

白紋羽病温水治療の効果は、温水熱と土壤の善玉菌、双方の働きにより得られることを明らかにしました。また、果樹園土壤の善玉菌の強さを見える化し、善玉菌の力が弱い圃場では、善玉菌を含有する土壤改良資材を併用することで、温水治療の効果が向上する可能性が示されました。



白紋羽病温水治療

**発表5** 情報提供 (15:25~15:45)

改植時に使える?! ナシのいや地リスクの測定方法

果樹研究室 戸谷 智明

ナシは改植した苗木に、いや地現象と呼ばれる生育不良が発生します。そこで、改植する位置の土壌を検査することで、いや地現象の発生リスクを測定する簡単な方法を開発しました。また、この方法を用いてナシの樹の周辺の土壌を調査したところ、主幹に近く、また表層に近いほどいや地現象が発生するリスクが高いことがわかりました。



異なるいや地リスクの土壌に定植した樹体生育

**発表6** 情報提供 (15:45~16:05)

改植時に残った前作樹の根はいや地現象の原因にはならない?

果樹研究室 戸谷 智明

ナシの根は広範囲に存在しており、完全に取り除くことは難しいです。従来、残った根が原因でいや地現象が発生すると言われてきました。しかし、ナシの根を土壌に混和して試験を行ったところ、土壌のいや地リスクを上昇させないことや樹の生育を抑制しないことが明らかになり、いや地現象の発生要因にならない可能性があることが明らかになりました。



根を混和した土壌に定植した樹の生育  
左：根混和 右：無処理

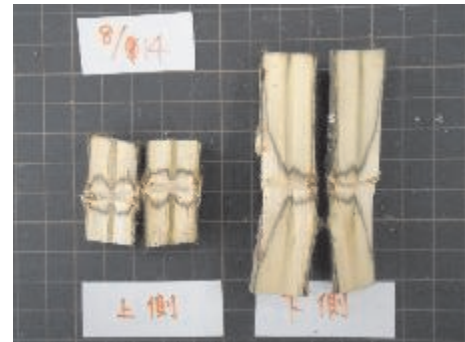
発表7 情報提供 (16:05~16:25)

ナシ萎縮病の腐朽長が伸びる樹の条件

—樹の太さと樹皮との関係—

果樹研究室 吉田 明広

ナシ萎縮病は、主枝分岐部等太い枝に多く腐朽が分布していることから、枝の太さなどの樹体の条件と腐朽の拡大の関係性について調査しました。ナシ萎縮病菌をナシ幼木、ナシ成木の骨格枝、側枝及び剥皮したナシ幼木にそれぞれ接種し腐朽の伸長を観察した結果、ナシ萎縮病の腐朽が拡大する樹体条件についてご紹介します。



ナシ萎縮病による腐朽の広がり